

令和 2 年 7 月 2 日現在

機関番号：32632

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2018～2019

課題番号：18H05583・19K20792

研究課題名(和文)日本上代史料における韻文の基礎的研究

研究課題名(英文)Basic reserch of rhymes in ancient Japanese historical materials

研究代表者

仲谷 健太郎 (NAKATNI, KENTRO)

清泉女子大学・文学部・専任講師

研究者番号：20825294

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：8世紀までに成立した日本の文字資料においては、その数は多くはないものの、歴史資料に韻文が記されているものが発見されている。それらの文字資料としての価値は評価すべきでありながらも、韻文作品として解釈するものは未だ少なく、日本古典文学研究の点からは捨て置かれてに等しい状況といえる。

2018年度・2019年度はともに、京都府宇治市の橋寺放生院の蔵する「宇治橋断碑」銘文について注解を行うとともに、同時代の国内の文献、及び中国文学や仏典との比較を以てその表現性を考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

主要な上代文学作品の個別的な研究は、近年に至っても様々な手法を取り入れつつ進展しているものの、上代における韻文の研究という包括的な観点からは、歴史資料に書かれた韻文が看過されている以上、取り組むべき課題は未だに多いといわざるを得ない。歴史資料における和歌や漢詩、韻律上の制約を持つ駢儷文など、認識はされているが理解がされていない韻文や、これまで韻文と認識されなかった文字列も、主要な上代文学作品と同様に上代の韻文作品と位置付け究明していくことにより、上代韻文研究を推し進め、個別の作品理解を深化させる手段となり得る。

研究成果の概要(英文)：Although there are not many numbers in Japanese written materials established by the 8th century, it has been found that historical materials have verses. Although its value as a textual material should be evaluated, there are still few things that can be interpreted as a literary work, and it can be said that it is almost abandoned in terms of Japanese classical literature research.

In both FY2018 and FY2019, I reserched on the inscription "Ujibashi Monument" in the Tachibanaji Hoshoin in Uji City, Kyoto Prefecture, and compared it with domestic and Chinese literatures and Buddhist scriptures on the same period.

研究分野：日本上代文学

キーワード：上代文学 金石文 正倉院文書

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

8世紀までに成立した日本の文字資料においては、その数は多くはないものの、木簡や正倉院文書、金石文などのような歴史資料において、韻文が記されているものが発見されている。それらの文字資料としての価値は評価すべきでありながらも、『万葉集』や『懷風藻』などの同時代の韻文作品群と同様の水準を以ってする研究は未だ少なく、日本古典文学研究の点からは捨て置かれているに等しい状況といえる。

そうした文字資料は発掘や保存技術の発展により多くの発見例が報告されており、また、オンラインデータベース等を活用し広く公開されつつある。同時代の作品が少ないとされる上代文学研究において、これらの文字資料について理解を深めることは、翻って上代文学作品の理解の深化へと寄与できるのではないだろうか。

### 2. 研究の目的

本研究は上代韻文という包括的な観点から、歴史資料における韻文を主要文学作品に比肩する上代文献の一端と位置付けて考察し、さらにその成果を主要な文学作品の個別理解へ還元することで、より精緻な講究を得ることを目的とする。主としてフランス派比較文学的手法に基づき、中国古典文学による影響関係(いわゆる出典論)を視野に入れつつ、同時代の主要文学作品とその表現性の相違について考察し、歴史資料における韻文の作品理解を行う。そしてその作品理解に則り、主要な上代文学作品との表現上の差異と、その契機を明らかにする。

### 3. 研究の方法

「1. 研究開始当初の背景」で述べた歴史資料に記される韻文については複数が確認されており、申請者は過去2篇の論考( )により、その分析の重要性を主張してきた。それらの論考で扱ったもの以外に、代表的なものとして、正倉院文書楽書に見える七夕詩や、石碑や墓誌、骨蔵器などの銘文(いわゆる金石文)が挙げられるだろう。

本研究ではこれらを主たる研究対象とし、中国古典文学とこれらの韻文作品との関連、さらには主要な上代文学作品と比較することにより、上代の韻文における表現や形式を分析する。また、中国古典文学からの影響を顕在化させることにより、上代における中国古典文学受容の様相についても明らかにしたい。

拙稿「『造東大寺司牒案』紙背の七言絶句について」(『上代文学』119、2017年11月)

拙稿「平城京二条大路出土木簡の『山東山南』詩について」(『美夫君志』96、2018年3月)

### 4. 研究成果

#### (1) 「宇治橋断碑」銘文の研究

2018年度、2019年度の双方において、京都府宇治市の橋寺放生院の蔵する「宇治橋断碑」銘文について注解を行うとともに、同時代の国内の文献、及び中国文学や仏典との比較を以てその表現性を考察した。

その結果、当該銘文が中国の古典籍に基づく表現が散りばめられ、当時の中国文学受容の一端が看取できるものであることを明らかにした。また、後半部分は仏典からの表現の流用が多数行われていることや、銘文自体の形式が北魏期の造像銘に近いことを指摘した。この

成果については2篇の論文を執筆し、1篇は既刊、もう1篇は掲載が決定している（「5 . 主要な論文」を参照）。

（2）「造仏所作物帳」七夕詩序の研究

正倉院文書「造仏所作物帳」（続修正倉院古文書、第三十二巻）の楽書にみえる、七夕を題とした漢詩、及びその詩序について考察を行った。この全文に対する注解は現状みえず、詩序について詳論するものが一篇存するのみである。現在、全文注釈を論文形式で発表すべく、鋭意執筆中である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 仲谷健太郎	4. 巻 11
2. 論文標題 「宇治橋断碑」銘文放 第一行を中心として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 清泉女子大学言語教育研究所 言語教育研究	6. 最初と最後の頁 59-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="https://ci.nii.ac.jp/loge/navi?name=crossref&amp;id=info:doi/10.24743/00001265">https://ci.nii.ac.jp/loge/navi?name=crossref&amp;id=info:doi/10.24743/00001265</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 仲谷健太郎	4. 巻 12
2. 論文標題 「宇治橋断碑」銘文放 第二・三行を中心として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 清泉女子大学言語教育研究所 言語教育研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----